

- コシヒカリの出穂期は近年並の7月31日頃で、収穫時期は9月10日頃と見込まれます。
- 圃場ごとに籾の黄化状況を確認し、適期収穫に努めましょう。
- 適切な乾燥・調製で、胴割米等による品質低下を防ぎましょう。

1. コシヒカリの刈取りについて ～胴割米に注意！～

- (1) 籾の黄化状況を必ず確認し、黄化率85%から収穫を始め、適期内に収穫を終えましょう。
- (2) 小出来な圃場や枯上がりの早い圃場から収穫を始め、刈遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。

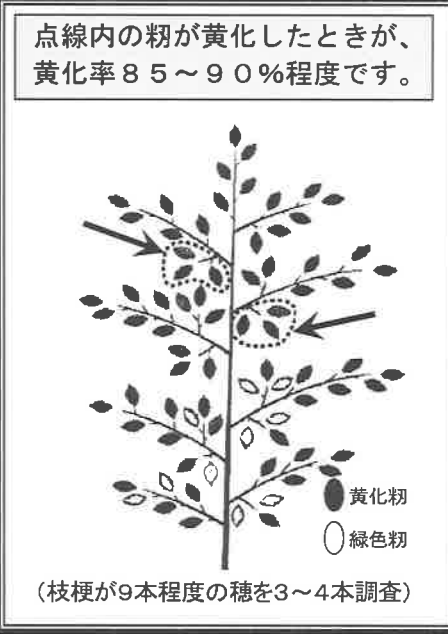
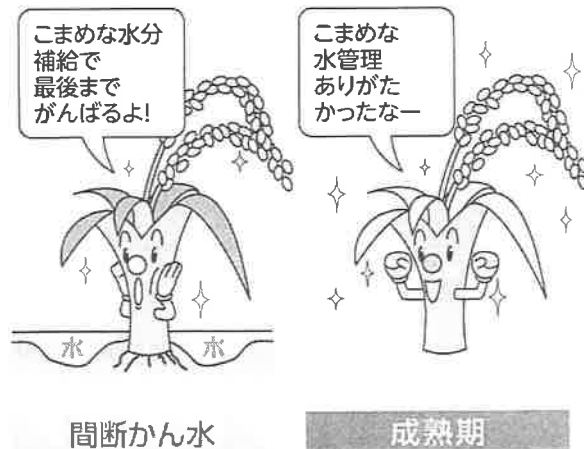
表1 出穂期からみたコシヒカリ刈取適期の目安

出穂期	7/27頃	7/31頃	8/4頃
刈取適期	9/5～7頃	9/10～12頃	9/14～16頃

※今後の天候で刈取適期が変わりますので、実際の刈取りは、各地域の「刈取適期表示」(刈取始期を表示)を参考にしてください。

2. 刈取りまでの水管理！ ～もう1回入水を！～

- (1) 刈取りの5～7日前までは「間断かん水」を行い、胴割米の発生を防止しましょう。
※フェーン等の高温が予想される時は、事前に入水し、稲体の活力を維持しましょう。
- (2) クサネム・ヒエ等の種子混入につながる雑草は、収穫前に確実に抜き取りましょう。



3. 適正な乾燥で過乾燥米を防ぎましょう！ ～玄米仕上げ水分 14.5～15.0%！

【乾燥作業の留意点】

- (1) ヤケ米の発生防止のため、刈取った籾は4時間以内に乾燥機に張り込み通風しましょう。
- (2) 乾燥前に、2～3時間程度の常温通風循環を行いましょう。
- (3) 乾燥ムラを出さないために、二段乾燥(籾水分が17%台になったら一時中断し、水分を均一にする)を行いましょう。
- (4) 青米の混入程度を確認し、下表の目安を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。

表2 乾燥機の停止水分判定の目安

100粒中の青米数	乾燥機の設定停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く (-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる (+0.5%)

※玄米水分が17%をきったら、手動水分計でこまめに測定しましょう。

【調製作業の留意点】

- (1) 籾摺りは、乾燥後2～3日置いて玄米水分を均一にしてから行い、肌ずれ米の発生を防ぎましょう。
- (2) 選別は1.9mmの篩目を使用するとともに、機種ごとの適正流量を守り、完全粒歩合を高めましょう。
※稲こうじの発生が見られる場合は、粗選機等で病粒を除去した後、籾摺りを行いましょう。



とやまGAPの実践 「事前点検でコンバイン事故等を防ぎましょう!!」
秋の農作業安全運動 8月20日～10月20日

裏面に続く

高品質・美味しい山田米は、まず土づくりから！！

1. 土づくり資材の散布 ～土づくり資材は継続して散布しましょう！～

- (1) アルカリ成分を含むケイ酸質資材を毎年、確実に適正量を施用しましょう。
- (2) 土壌 pH が低いとカドミウムが吸収されやすくなることから、土壌 pH は 6.0～6.5 を目標に改良しましょう。
- (3) 籾殻、わらはは重要な土づくり資源です。燃やさず鋤き込みましょう。
- (4) 営農組織や集落単位で、効率的な土づくりに取り組みましょう。

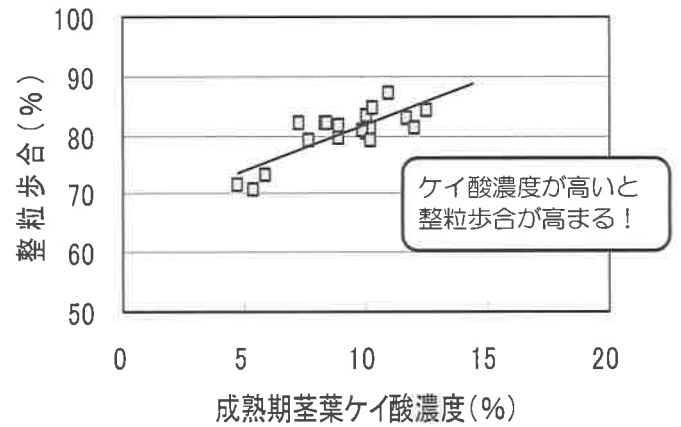
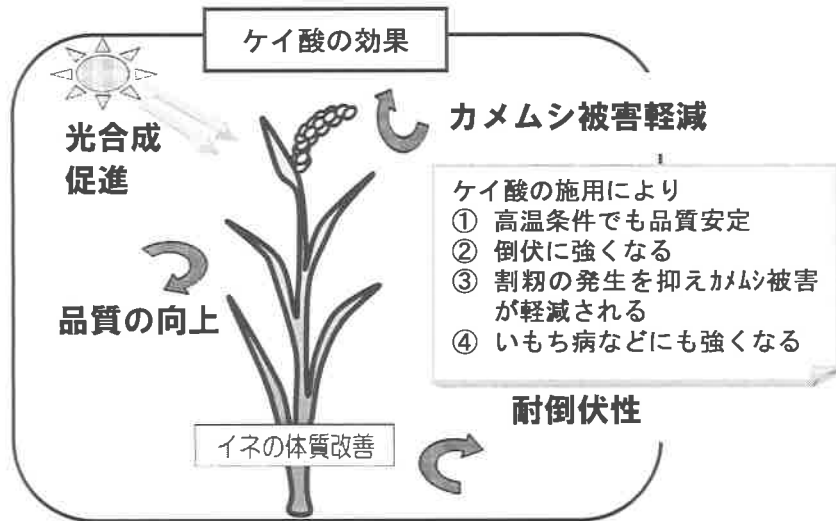


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

【土壌改良（ケイ酸&アルカリ分）資材の施用の目安】

資材名	施用量 (kg/10a)	主な成分
米取けいさん鉄	100	ケイ酸 24%、アルカリ分 36%、リン酸 2%、鉄 8%、苦土 3%
いなほシリカロマン	100	ケイ酸 25%、アルカリ分 45%、リン酸 5%、鉄 5%、苦土 7%

2. 有機物の施用 ～有機物の補給で地力を向上！～

地力が低い圃場では、牛ふん・豚ふん・籾殻堆肥や発酵鶏ふんの施用に努めましょう。

【堆肥】（秋施用）

堆肥名	施用量
牛ふん堆肥	1～2t/10a
豚ふん堆肥	
籾殻堆肥	2t/10a
発酵鶏ふん	5～10袋/10a

土づくりを要とし
高品質・良食味の
山田米を堅持しよう！！



3. 深耕で作土層を拡大 ～根を深く伸ばし、稲の活力を向上！～

- (1) 耕起時は、トラクターの作業速度を落とし、作土深 15 cm 以上を確保しましょう。
- (2) 秋耕後は、排水溝（深さ 20cm 以上）を設置し、排水口と連結しましょう。

秋の土づくり運動 期間 9月15日～11月15日